

1 渡辺 竜彦 議員（志政会）

（1）坂井市の震災・災害時の対応及び庁舎のあり方について

- ・本庁舎は、耐震性に問題はないのか。また、新耐震基準を満たしているのか。坂井市役所のI s 値（構造耐震指標）の指標は。
- ・坂井市の震災・災害時の業務継続計画（BCP）はどのようなになっているのか。
- ・震災・災害時における庁舎の果たす役割について。

2 辻 人志 議員（政友会）

（1）防災対策について

- ・地域における共助意識をどのように浸透させているか。
- ・避難所における防災倉庫の整備は完了しているか。
- ・備蓄物資の状況について、避難対象になる人口に対して備蓄物資は十分に確保されているか。
- ・災害時に被害を受けやすい立場にある災害弱者（災害時要援護者）への対応訓練や支援体制を検討しているか。
- ・防災訓練にペットと共に参加することを促していくべきと考えるが、現状と合わせて市の見解を問う。
- ・大規模災害の発生を想定した応急仮設住宅の建設用地の候補地を選定しているか。

（2）特定外来生物について

- ・坂井市内における特定外来生物の状況を把握しているか。
- ・この時期に繁殖する特定外来生物のオオキンケイギクについて、市民に周知して駆除すべきと考えるが、必要な対策を講じているか。

3 南川 直人 議員（志政会）

（1）景観条例によるまちづくりについて

- ・特定景観計画区域内の建築物や工作物（電柱、街路灯、塀など）の景観法に基づく届け出の現状はどうか。
- ・特定景観計画区域内における景観条例の住民による認知度はどの程度か。
- ・丸岡城天守の国宝化に向け、武家屋敷地区や町屋地区における景観づくりに対してどのような景観誘導を行うのか。
- ・塀や、消火器のホース格納庫など景観形成に寄与し風情が醸し出される物は、積極的に助言、指導すべきではないか。
- ・太陽光発電において、豊かな自然環境の田園風景である景観を、損なわないような設置に配慮が求められるが、今後の指針はどうか。
- ・北陸新幹線から見えるであろう丸岡城について、市の景観ポイントとして活用できないか。

4 戸板 進 議員（志政会）

（１）坂井市インバウンド事業について

- ・今回の「越前加賀インバウンド推進機構」は「越前加賀宗教文化街道～祈りの道～推進協議会」を発展させたとされているが、その違いはどこにあるのか。
- ・市や町が、まずはそれぞれの観光資源を生かし、外国人旅行者に魅力ある事業を確立したうえで、広域でどう連携するかが重要と考える。現在坂井市は、独自のシティセールス事業を推進しているが、今後インバウンド事業への取り組みをどう考えるのか。また、「越前加賀インバウンド推進機構」との連携はどのような方向性で進められるのか。

5 後藤 寿和 議員（志政会）

（１）坂井市のゆるキャラについて

- ・坂井市には公認されていないゆるキャラが何人いて、どこの団体のキャラクターなのか把握をしているのか。
- ・坂井市公認のゆるキャラを導入させて、坂井市認知度アップに利用すべきと考えるが市の見解は。

（２）地域防災について

- ・災害が起きた時に支援物資等がかなりの数送られてくると思うが、その支援物資を貯蔵する場所は決まっているのか。
- ・災害が起きてから国や県の輸送道路は決まっているが、市として一番に輸送する市道は計画の中で決まっているのか。
- ・市は地域住民に自主防災組織をつくるように啓発しているが、坂井市における地域の自主防災組織の現状は。
- ・地域における自主防災組織の補助金は防災資機材の購入に対しての補助金だが、防災士リーダー育成などのセミナー等に対しての補助金はでないのか。
- ・自主防災組織をつくるまでを啓発しているように感じるが、つくった後のフォローアップなどの対応もしているのか。

6 上出 純宏 議員（志政会）

（１）三国駅前整備計画の進め方について

- ・京福三国駅ビルを坂井市が買い取り、駅ビル内の店舗は順次移転しているようだが、現況と今後の見通しは。
- ・新しく建てられる駅舎のデザインは、まだまだこれからだろうが、市民はこのデザインに一番興味があるようだ。市長が描くイメージを伺いたい。
- ・この計画は駅舎だけでなく、現三国コミュニティセンターの移転を含めた駅前全体の再整備計画と理解しているが、今後、この整備計画をどのように進めるのか。
- ・みくに龍翔館方面につながり、三国北小学校の通学路にもなっている「えっせる坂」は整備計画に加わるのか。

7 上坂 健司 議員（政和会）

（１）高齢者の生きがい対策について

- ・老人クラブの加入率（単位クラブ・会員数）・年齢分布の推移はどうか伺う。
- ・老人クラブ活性化・会員増について、今後の取り組みを問う。

（２）手紙文化を日本一のまちに

- ・「一筆啓上 日本一短い手紙の館」開館後、市民の手紙文化をどう捉えているか、見解を問う。
- ・7月23日（ふみづきふみのひ）を坂井市の日に制定してはどうか伺う。
- ・市民の手紙文化創造に寄与するために、坂井市の特色をテーマ（四季折々の自然、豊富な食、坂井ブランド、イベント、住みよい環境等）とした「一筆啓上 ふるさと坂井市を想う」を実施してはどうか。

8 川畑 孝治 議員（政友会）

（１）坂井市ブランドを選定しては

- ・坂井市ブランドを選定しては。
- ・坂井市ブランドを通して、坂井市の良さを子どもたちや市民に知らせ、誇りに思ってもらっては。

（２）高齢化社会の対策について

- ・市内のショッピングセンターやスーパーなどに、気軽に健康や介護などの相談ができる、保健室のようなものができるか。
- ・高齢者の安否確認や急に体調が悪くなった時のための対策が必要では。（病院のナースコールのようなものを高齢者世帯に設置できないか）

9 小原 慶之 議員（政友会）

（１）2018年福井しあわせ元気国体について

- ・国体の際に作る、市独自の国体用パンフレットはどのようなものを考えているのか。

（２）あわら市との広域連携について

- ・今後、観光周遊ルート作成以外に、あわら市とどのように連携していく考えがあるか。

10 川端 精治 議員（志政会）

（１）小学校プールの維持管理および施設の老朽化について

- ・過去3年間の市内小学校のプールに係る修繕費用は。
- ・各学年の水泳授業時間およびプールの年間使用日数は。
- ・プールの老朽化が進行していく中、中長期的な視野での計画が必要である。今後の運用計画について教育委員会の所見を伺う。

（２）坂井市の観光振興策について

- ・北陸新幹線開業後の坂井市の各観光地の入込客数は。また、前年度対比の増加率は。
- ・坂井市まち・ひと・しごと創生総合戦略の観光振興策の一つである、坂井市周遊観

光ルートの整備について、2次交通網の整備が必要と考える。坂井市としての所見を伺う。

1 1 畑野 麻美子 議員（日本共産党議員団）

（1）女性活躍推進について

- ・女性活躍推進法に基づき「坂井市特定事業主行動計画」が策定された。今年度における具体的な取り組みと、今後、計画に基づき女性の活躍をどう進めていくのか。
- ・市の子ども・子育て支援事業計画や福祉保健総合計画、中小企業振興計画など、必要とされる計画に女性活躍推進の観点を組み込み、すべての部署においてその課題に向け具体策を立てて取り組むことが必要。

（2）障害者差別解消法について

- ・役所で働く人が適切に対応するために、不当な差別的取り扱いや合理的配慮の具体例を盛り込んだ「対応要領」を、障がいのある人などから意見を聴きながら作成することが必要。
- ・障がい者差別を解消するための取り組みを行うネットワークとして、地域の様々な関係機関などによる「障害者差別解消支援地域協議会」をつくり、地域の中のつながりの一歩に。

（3）運転免許返納について

- ・無料乗車券の利用率は。
- ・運転免許返納者に対するタクシー券の交付を。

1 2 前川 徹 議員（政和会）

（1）AEDの普及促進について

- ・観光地、レジャー施設、文化・スポーツ施設におけるAEDの設置状況と、従業員等の講習会の実施状況は。
- ・市内のどこにAEDが設置されているのかを把握し、そのAEDの設置場所を市民が容易に知りうる環境を整備すべきと考えるが。
- ・AEDの積極的な使用を促すために、AEDの使用方法に関する講習・訓練の機会、および受講者を増やす取り組みが必要と考えるが。
- ・市民誰もが、突然心肺停止になった人を救命することができるよう「AEDの普及促進に関する条例」を定めて、AEDの積極的使用を含めた心肺蘇生法の普及促進を図ったらどうか。

1 3 佐藤 寛治 議員（政和会）

（1）震災対策について

- ・福井平野東縁断層帯主部が確立「ほぼ0～0.07%」規模「M7.6程度」と評価されているが、これをどう受け止めているのか。
- ・市内における活断層の詳細な位置や地盤の強さなどどこまで把握し、データとしてまとめているのか。

- ・指定緊急避難場所となっている小・中学校施設や公共施設が活断層上に建設されていないのか。
- ・活断層上に構築物を建築する場合、条例、要綱等で建築規制をする考えはどうか。また、活断層上での建て替え時に指導助言する考えはどうか。
- ・国はBCPで、あらかじめ代替執務場所を選定するよう求めているが、本市はどこを代替執務場所と考えているのか。
- ・BCPに他自治体との応援協定、行政データのバックアップについても盛り込むべきと思うがどう考えているか。

14 松本 朗 議員（日本共産党議員団）

- （1）公共工事の入札および契約方針の変更に伴う公契約条例の制定について
 - ・予定価格の事前公表を市は行わないとしてきた。その理由は何だったのか。
 - ・歩切を廃止したことにより考えられる懸念は何か。また、その対策をどうするのか。
 - ・競争性を確保するための手立てをどうするのか。
 - ・下請け業者等へしわ寄せさせない具体的措置として、公契約条例を制定すべきでないか。
- （2）格差拡大と安倍内閣の経済政策、坂井市への影響
 - ・安倍内閣の3年余において、坂井市における市民生活と事業所の状況の推移を明らかにされたい。例えば、物価、平均賃金、大企業の収益と零細事業者の収益の状況など。
 - ・消費税10%増税の延期について、坂井市への影響は。
 - ・格差拡大で、「貧困の連鎖」、「子供の貧困」、「困窮中年」、「下流老人」などの状態が起きている。自治体としての対策を求める。

15 永井 純一 議員（公明党）

- （1）教師の負担軽減について
 - ・教育現場での現状と認識を伺う。
 - ・市（福祉的、財政的なもの）、市教育委員会、学校、地域、家庭でそれぞれ何をすべきか伺う。
- （2）キーワード「笑顔」について
 - ・先ず隗より始めよで、職員によって日本一親切で笑顔あふれる坂井市役所であってほしいと思うが、市長の所見は。また、職員自身が笑顔でいられるためには、ケア（心のケアを含めて）が必要だと思うが市長の所見は。

16 田中 哲治 議員（志政会）

- （1）学校を核にしたまちづくりについて
 - ・本市の学校選択制についての現状と今後の考え方について。
 - ・学校と地域が一体となって、子どもたちをより一層育むための考え方について。
- （2）農林漁業体験で食生活の向上を

- ・政府の第3次食育推進基本計画では「農林漁業体験をした国民の割合」の数値目標を現状の36%から40%以上にするというが、本市の現状は。
- ・本市の小・中学生の食の安全関心度について。
- ・ふれあい交流事業の一環として、本市の全ての小学校で地域交流事業を行っているが、現状と今後の考え方について。